

「（仮称）ミライ構想」に関すること

つながり 関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性を表現するにあたり、発展（グロース）ではなく、「<u>おもいやり</u>」や「<u>関係性</u>」という言葉が色濃く感じられるようにすると良いのではないかな。
都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>高齢者の暮らし</u>をどうするか、車を運転できなくなった時に、まちの中でつながりをつくる暮らしを楽しむことができるか
	<ul style="list-style-type: none"> ・都市構造に「<u>多様な主体が楽しむまちづくり</u>」や「<u>ゼロカーボン、エネルギー</u>」の視点も入れるべきではないか
	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>中山間地の林業や農業の在り方</u>にも「ゼロエミッション、ゼロカーボン」の考えを持ってないか

「（仮称）ミライ実現戦略2030」に関すること

子ども視点	<ul style="list-style-type: none"> ・大人から見た視点ではなく、<u>子どもと同じ目線、視点で未来を語れるように</u>することに留意が必要
	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子ども自身の意見を聞く場</u>を設け、施策を実行する段階においても、<u>子どもが実際に参画する形</u>で進めていけないか
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども軸のバイアスがかかりすぎると、生涯学習や弱者の視点が抜け落ちる。<u>子ども目線で、そこに関わる大人の視点を含めて議論する必要</u>がある
学び合い・生涯学習 多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に限らず<u>どの世代でも学ぶということは喜び</u>であり、<u>社会が急速に変化する中で、学び直しは必要</u>。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が減る中で、<u>違う世代と接する・交流することが減り</u>、子どもの地域に対する理解や愛着が形成されていない。また、<u>大人側も昔の子どものイメージしか持っていない</u>。「<u>多世代</u>」を強調するべきではないか
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者と子どもがつながっていることが地域福祉においてよい効果を生み出す。地域で顔の見える関係を作るためには多世代交流が重要。福祉は、<u>日頃からのつながりがあって初めて手を差し伸べることができる</u>
ウェルビーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにアート、スポーツ、伝統文化活動をさせることでウェルビーイングが向上すると読めるため、やわらかい表現への見直しが必要ではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイングについても、アート、スポーツ、伝統文化があれば保証されるものではなく、<u>子どもたちの選択肢を増やしてあげるという視点で接することが必要</u>ではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得型のウェルビーイング（自尊感情や自己効力感）と、協調型のウェルビーイング（個人が社会全体に働きかけながら、人とのつながりや思いやりから幸福を感じる環境を作る）がある。子ども視点、<u>子ども起点とウェルビーイングの関係性を整理する必要</u>がある。

地域共生・支え合い・多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>つながりの中で、自尊心や誇り、尊厳を持って生きることができる社会をどうつくるか。あわせて自己決定がどうできるかも問われることになるのではないかな。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや外国人が共働り・<u>参画する場</u>が重要。そういったことができるとう<u>自己有用感</u>を持ちながら地域で暮らすことができ、<u>また地域への愛着も生まれる</u>。 ・多様な方が豊田市に住んでいるという事がまだ認知されていないということを実感しているため、<u>可視化し共有する</u>ことが重要。 ・次世代を担う子どもの育成は重要である一方、貧困家庭、ヤングケアラー等の課題もある。<u>事業者やNPO等との連携を通じて支えあう環境をどう作るか</u>といった視点もモデルの中に描けないか。 ・<u>共助をもう一度取り戻す</u>という時代に転換しなければならないのではないかな。住民の自治の在り方をもう一度見直す必要があるのではないかな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル社会が進展するからこそ、<u>デジタルとリアルの融合によりリアルな体験・感動の価値が高める</u>」という視点・表現のほうが良いのではないかな。 ・デジタルが進むほど、リアルの価値が高まるべき。デジタルな社会が進んでいく中で、<u>リアルな体験を、どう経験してどうその価値を守るのか</u>ということを考えていくべきではないかな。 ・子どもたち自身が主体的に暮らすための共通項は、文化、芸術、スポーツといった、自分でしか感じられない、<u>自分でしか行動できないものに集約される</u>のではないかな。
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・（社会動態について）豊田市は、近隣自治体と比べても遜色ない施策を行っていると思うが、<u>伝え方に工夫が必要</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのウェルビーイングに、コンパクト+ネットワークがどう関わりを持つのか
愛着・誇り	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着・誇りのベースになる部分は、拠点単位での地域独自の文化 ・「愛着・誇り」は、決して豊田市のためにではなく、<u>一人ひとりが自分らしく暮らし続けることができる、そのためにある</u>ということを前提に置く必要がある。

その他

市民参画	<ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取ではなく、「<u>対話</u>」と表現したほうが良いのではないかな。 ・<u>豊田市を離れた方の意見</u>を聞いてみて、何かキーワード、イベント、事象、場所が出てくると豊田市らしさのすり合わせができるのではないかな
	<ul style="list-style-type: none"> ・予測可能性が低い中で多様性を高めることが生き残りの戦略だが、総合計画自体が、多様性を下げている可能性がある。本来、<u>総合計画をどう作るか</u>という議論が必要。 ・できるだけ<u>開放型の計画</u>とし、<u>その都度、人々が創意工夫</u>をしながら、それぞれの人が人生や社会を作っていくという考え方で計画を作れないかな。
あり方の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・予測可能性が低い中で多様性を高めることが生き残りの戦略だが、総合計画自体が、多様性を下げている可能性がある。本来、<u>総合計画をどう作るか</u>という議論が必要。 ・できるだけ<u>開放型の計画</u>とし、<u>その都度、人々が創意工夫</u>をしながら、それぞれの人が人生や社会を作っていくという考え方で計画を作れないかな。

地域会議への諮問

第9次豊田市総合計画の策定に向け、同計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「（仮称）ミライ構想」のめざす姿や都市構造の基本的な考え方について諮問を行うとともに、意見交換を実施

■期 間 令和5年8月3日（木）～10月3日（火）（以下表のとおり）

■参加者 ○各地域会議委員（総勢470名） ○豊田市長又は副市長

地区名	委員数	日 程	時 間	場 所
旭	15	8月3日（木）	午後6時30分～	旭交流館
松平	16	8月9日（水）	午後7時～	松平交流館
美里	17	8月10日（木）	午後7時～	美里交流館
逢妻	17	8月16日（水）	午後6時30分～	逢妻交流館
井郷	20	8月16日（水）	午後7時～	井郷交流館
猿投台	20	8月17日（木）	午後7時～	猿投台交流館
前林	19	8月18日（金）	午後7時～	前林交流館
猿投	19	8月24日（木）	午後7時～	猿投北交流館
若林	20	8月25日（金）	午後7時～	若林交流館
藤岡南	17	8月29日（火）	午後7時～	藤岡南交流館
藤岡	17	8月31日（木）	午後7時～	藤岡交流館
梅坪台	12	9月12日（火）	午後7時～	梅坪台交流館
浄水	11	9月13日（水）	午後7時～	浄水交流館
朝日丘	15	9月14日（木）	午後6時30分～	朝日丘交流館
崇化館	16	9月19日（火）	午後6時30分～	崇化館交流館
上郷	16	9月19日（火）	午後7時～	上郷交流館
高橋	15	9月19日（火）	午後7時～	高橋交流館
若園	20	9月20日（水）	午後7時～	若園交流館
末野原	15	9月20日（水）	午後7時～	末野原交流館
益富	19	9月20日（水）	午後6時30分～	益富交流館
豊南	18	9月21日（木）	午後6時30分～	豊南交流館
下山	15	9月21日（木）	午後7時～	下山交流館
稲武	16	9月22日（金）	午後7時～	稲武支所
足助	17	9月25日（月）	午後6時30分～	足助支所
竜神	18	9月26日（火）	午後7時～	竜神交流館
石野	17	9月26日（火）	午後7時～	石野交流館
保見	18	9月27日（水）	午後7時～	保見交流館
小原	15	10月3日（火）	午後7時～	小原支所

（参考）地域会議について

平成17年の市町村合併を契機に、それぞれの地域事情の違いをまちづくりに反映できるようにするため、地域自治システムを導入し、都市内分権の推進を図っています。地域自治システムの柱の一つである地域会議は、地域住民の多様な意見の集約と調整を行うための審議機関として市内28地区に設置しています。

（主な役割）

- ・市長からの諮問事項に関する審議と答申
- ・地域課題解決に向けた市長への提言

関係団体等との意見交換

第9次豊田市総合計画の「（仮）ミライ構想」や「10年後のミライ、どんな豊田市にしたい？」等の個別テーマについて、意見交換を実施

■実施済

- 市内の若手・中堅活動者との意見交換：NPOや市民活動団体等の方14名（令和5年9月22日（金）、10月2日（月））
- 区長会：区長会四役会、役員会等（令和5年8月）
- 豊田商工会議所（令和5年6月13日（火）、9月13日（水））
- 豊田青年会議所（令和5年11月10日（金））

■今後の予定

- 子ども（令和5年12月10日）
*子ども会議（子どもミーティング）において議論
- 外国人（令和6年1月～3月ごろ）
*国際まちづくり推進課実施の「外国人から意見を聞く会」において議論

まちづくりミーティング『みんなで考えるミライの豊田』

■開催日時

令和5年10月31日（火） 午前10時～午後0時30分

■参加者

主に子育て世代（30代～40代）を中心にした市民 20名

■テーマ

子どもたちが夢や希望を持って成長できるまちづくりを考えよう

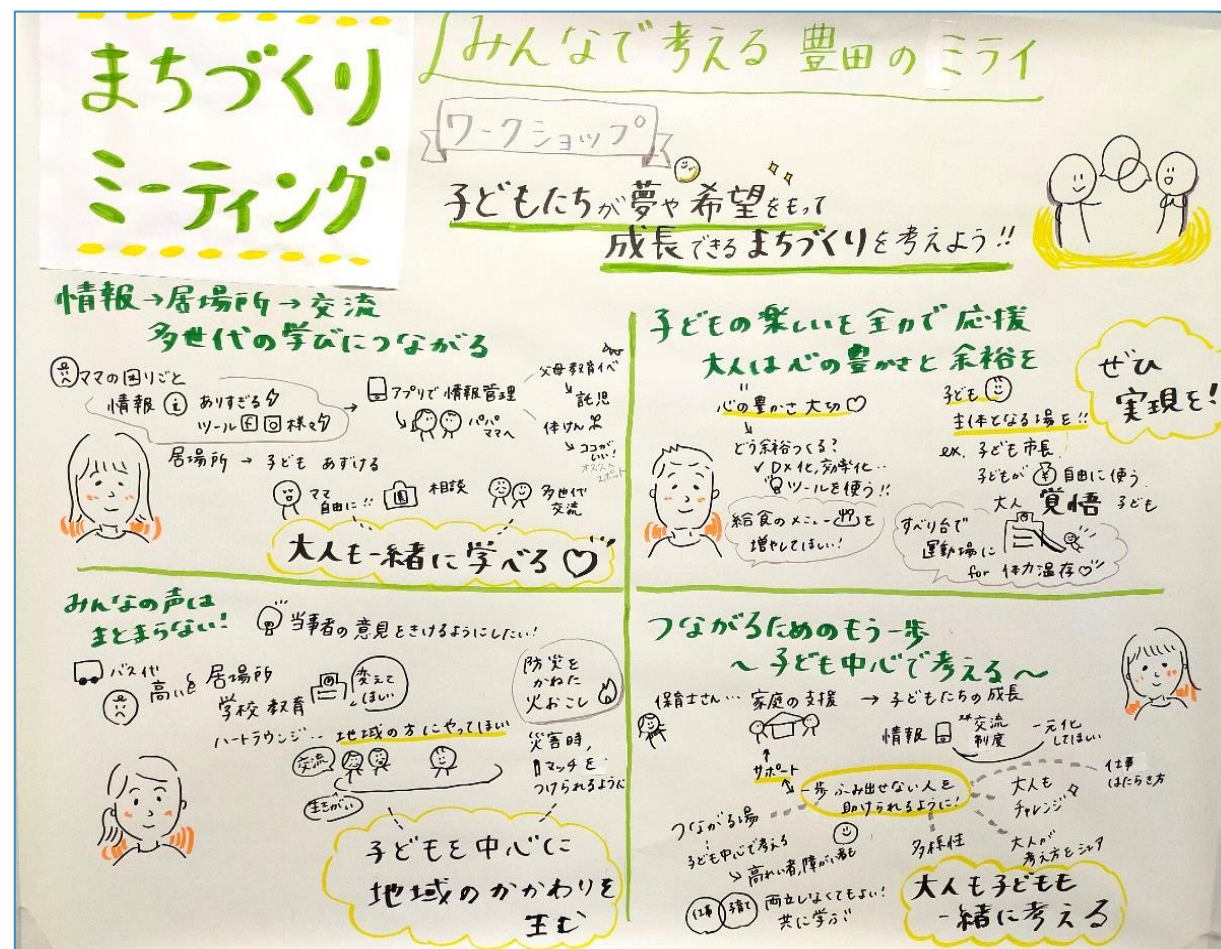
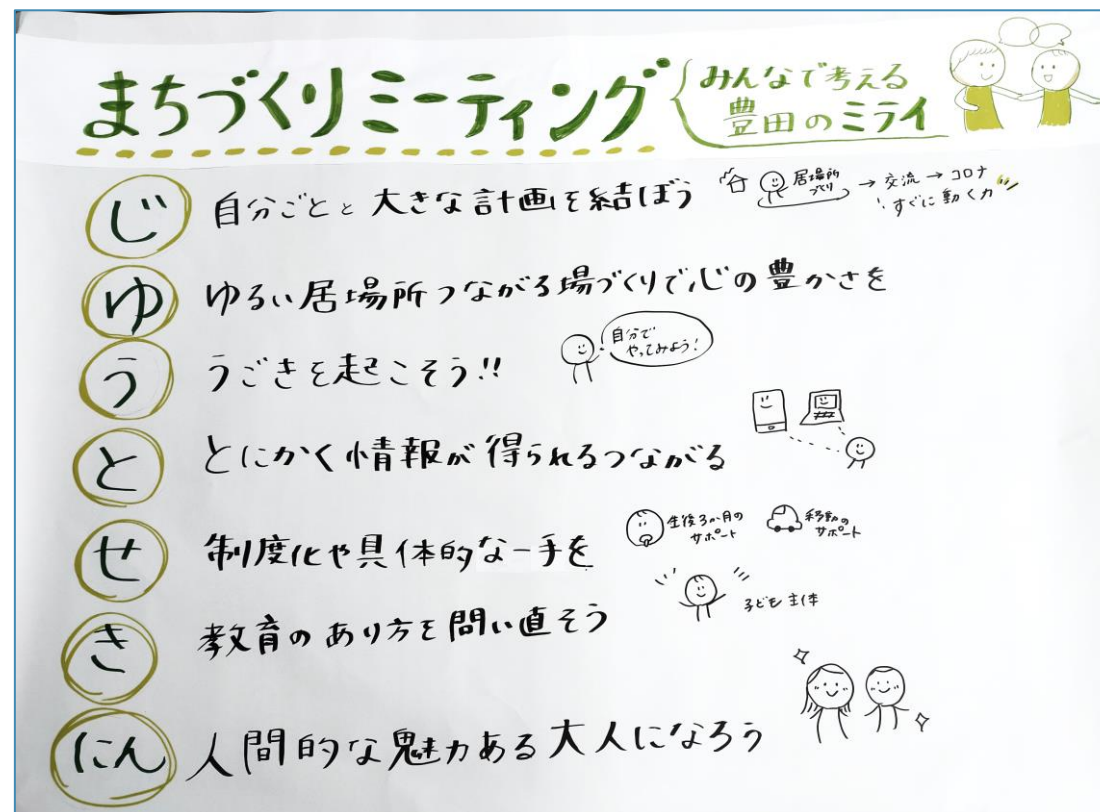
■その他

第2回を令和5年11月11日（土）に実施予定

（テーマ：「地域への愛着や価値を次世代に引き継いでいくには」）

【主な意見】

- ・市民が自ら動き出せるよう、一步踏み出すための環境づくりが必要。
- ・ゆるやかな場づくりを通じて、地域の「あたたかさ」を育て、地域の中で大人と子どもがつながることが大切。
- ・大人は子どもの「楽しい」を支え、いきいきと生きる姿を見せることが大切。
- ・生後3か月までの子育て支援や移動に対する支援など具体的な子育て支援制度の充実が必要。
- ・子育て支援制度や各種教室開催などの情報へのアクセスを容易にし、ローカル情報難民にならないような情報発信が必要。
- ・子連れ出勤など親が子育てをしやすいよう、柔軟な働き方が可能な環境づくりが大切。
- ・教育システムにおいて、学校や地域の役割を問い直すとともに、子どもたちの意見を実現できる仕組みづくり（例：子ども市長）により、子どもが主体となる場が必要。



①豊田高等工業専門学校

■開催日時

令和5年8月16日(水) 午前9時30分～11時

■参加者

豊田工業高等専門学校に通う学生7名（3～5年生）

■テーマ

- ①どんな働き方がしたい？—魅力的な就職・キャリア形成について—
- ②どんなライフプランが理想？—将来の暮らし・人生設計について—
- ③どんなまちに住みたい？—理想の住環境について—
- ④「つながり」についてどう思う？—まちづくりでやりたいこと・やれること—

【まとめ】

- ・学生世代の将来像は、右肩上がりの昭和世代とは違い、稼ぐ、偉くなりたい、という**社会的地位を高める思想より、自己実現を主眼**としている。
- ・働き方も多様性があり、生活において必要最低限のお金は稼ぐ必要はあるが、**時間を仕事以外の活動（ボランティアなど自己肯定感が高まること）に使いたい傾向**がある。
- ・そのため、今の学生世代は、**人とのつながりに対する受容性は高い**と感じる。
- ・結婚に関しては、**漠然と明るい将来が展望できないことが、結婚願望や出産願望を下げている**と受け取れた。

②中京大学

■開催日時

令和5年9月20日(水) 午前10時～11時30分

■参加者

中京大学豊田キャンパスに通う学生37名
（スポーツ科学部、現代社会学部、工学部：2～4年生、修士1年生）

■テーマ

- ①「つながり」についてどう思う？—まちづくりでやりたいこと・やれること—
- ②どんなまちに住みたい？—住環境について—
- ③どんなライフプラン・働き方が理想？—将来的な暮らし方や働き方について—

【まとめ】

- ・スポーツを生かした多世代のつながりの提案があり、また、将来の価値観として、**仕事だけでなく自身のライフイベントや暮らす環境の中に人とのつながりを求めている**傾向がある。
- ・自分の活動や能力をいかしてまちづくりに関与できることに満足感を感じる学生もあり、**地域貢献への関心や自己実現の欲求が高い**と感じられる。



1 全体像

「市民と市民」「市民と行政」の対話を通じ、市民の気づきや主体的な行動につなげられる「共働による計画策定の場」づくりをめざす。

目的	手法	取組	ターゲット	実績
幅広い市民との対話	アンケート	デジタル 実施完了 市民意識調査	市政に対する評価やまちづくりへのニーズを幅広く調査 ・無作為抽出された市民を対象にインターネット及び紙によるアンケート調査を実施。	全市民 (無作為抽出) 4,036人 ※有効回答数
	意見募集	新規 デジタル 実施中 (仮称) とよたシティボイス	計画の方向性に対する幅広い意見集約 ・計画策定の方向性に対する動画を作成し、市HP から意見提出できるフォームを作成。	全市民
		デジタル パブリックコメント・Eモニター	計画素案に対する幅広い意見集約 ・計画素案を公表し、素案に対する意見を募集。	全市民
地域との対話	諮問・答申 実施中 地域会議への諮問・答申 <参考資料1-2>	「(仮称) ミライ構想」等に対する地域の意見聴取 ・豊田市地域自治区条例に基づき「(仮称) ミライ構想」等に対する諮問・答申を実施(28地域会議で実施)。	地域会議委員	470人
個別テーマに対する意見交換	意見交換	新規 実施中 まちづくりミーティング <参考資料1-3>	計画の方向性に対する市民相互の意見交換 ・共働でまちづくりを考える機会として、市民相互の対話形式による意見交換を実施。	全市民 (特に若者、子育て世代)
		新規 実施中 学生との意見交換会 <参考資料1-4>	まちづくりに対する学生の意見聴取 ・市内の大学及び高等専門学校に通う学生との意見交換を実施。 (実施校：愛知工業大学、中京大学、豊田看護大学、豊田高専) ・市内高校でのまちづくりの課題研究講座(実施校：豊田北高校)	大学生・高専生 ・高校生 (市内在住・在学)
		実施中 関係団体等との意見交換 <参考資料1-2>	計画の方向性に対する関係団体への意見聴取 ・「こども」分野を始めとした取組方針のテーマに沿って、市民団体、経済団体、外国人等との意見交換を実施。	各種団体等

2 スケジュール

R5 (2023) 年度				R6 (2024) 年度			
～6月	～9月	～12月	～3月	～6月	～9月	～12月	～3月
審議会 (5/31)	審議会 (7/24)	審議会 (11/20)	審議会 (1/22)	審議会 (5/22)	審議会 (8/21)	審議会 (10/31)	
	地域会議 諮問 (8～9月) 答申 (12～1月)						公表
市民意識調査 (6～7月)	シティボイス (10～3月)				パブコメ・Eモニター (8～9月)		
	まちづくりミーティング (10/31,11/11)						
	学生との意見交換会 ●高専(8/16) ●中京大 (9/20) ●愛工大(12/11)、看護大 (12/14)						
	関係団体との意見交換						